

令和元年11月15日
(2019年)

保護者のみなさまへ

吹田市立江坂大池小学校
校長 木下 政治

令和元年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成31年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要をホームページで公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭・園におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

- ・国語の勉強が好き、大切だと思っている。
- ・内容はよく分かる、自分の考えを書いている。

にもかかわらず、

- ・全国の平均正答率をやや下回っている。
- ・言語に関わる領域以外の全ての領域で、全国の平均正答率を下回っている。
- ・話し手の意図を捉えながら聞いたり、目的に応じて質問することに課題がある。
- ・文章の内容を的確に押さえて読むことにも課題がある。

●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

話すこと・聞くこと

知識 : 全国値を大幅に下回っている。話し手の意図を捉えながら聞き、目的に応じて質問を工夫することができていない。

活用 : 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることに課題がある。また無回答率も高い。

書くこと

知識：全国値をやや下回っている。情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることができていない。

活用：全国値を下回る。目的や意図に応じて、自分の考えを明確にしてまとめることに課題がある。

読むこと

知識：全国値を下回っている。

活用：全国値をかなり下回り、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえること、自分の考えを明確にすることに課題がある。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

知識：全国値をやや下回っている。漢字を使って書き直す問題で、言葉の意味にあった漢字を書くこと、漢字を正しく書くことは課題があるが、全国値を上回っている回答もある。接続語を使って書き直す問題では、全国値をかなり下回っている。文と文をつなぐ接続語の役割を理解することに課題がある。

●国語科における成果と今後の改善点について

物語文や説明文、またそれに伴う設問などの長い文章を最後まで根気よく読み切る力を育成する必要がある。さらに、物事に対する自分の考えをしっかりとつことが求められる。そのために、今年度より、文章を読む際に文章の構成を視覚的に捉えやすくするべく、色分けなどの方法を取り入れている。また、自分で考えたことを短い言葉でまとめ、伝えることができるように、朝の大池タイムを活用し、言葉集めや視写に取り組んでいる。

●算数《概要》

- ・算数アンケートでは肯定的な回答が多くみられた。
- ・全国の平均正答率を上回る。特に「数と計算」と「数量関係」、「数量や図形についての知識・理解」が大きく上回っている。図形の正答率は、全国平均をやや下回っており、無回答率は全国並みであった。

数と計算

- ・計算の領域は全国平均を大きく上回っており、理解できている。しかし、「ひき算では、ひかれる数とひく数に同じ数をたしても、ひかれる数とひく数から同じ数をひいても、差はかわらないこと」をもとに、割り算の計算の仕方を説明する問題では、全国平均、大阪府平均よりも下回っていると同時に、無回答率も高い。

量と測定

- ・図形の面積の求め方の説明や資料の特徴や傾向を関連付けて理由を記述する問題では、全国平均を上回っており、概ね理解できている。しかし場面の状況から、単体量当たりの大きさをもとに求め方と答えを記述し、その結果から判断できる問題では、正答率が全国平均を下回った。問題文も長く、求め方、答え、結果からの判断と三つの回答すべてを求めることが難しかったと考えられる。また、場面の状況をとらえることに課題が見られる。

図形

- ・知識：台形については理解しているが、組み合わせてできる図形の構成を理解することに課題がある。

数量関係

- ・知識：資料の特徴や傾向を読み取ることはできている。しかし資料を関連付けて、関係性を考えたり、その理由を書いたりすることは全国を下回っている。

●算数科における成果と今後の改善点について

本校の児童の正答率は、全国平均を上回る結果であった。しかし、2つの合同な図形を組み合わせてできる図形の理解で課題がみられた。これまで通り正確な計算力の定着を図ることはもちろん、放課後学習や家庭学習等でも図形に関する問題に取り組み、くりかえし復習するよう取り組んでいきたい。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」では、「当てはまる」と答えた児童が全国値を下回っている。
- ・「家の人と学校での出来事について話をする」では「当てはまる」と答えた児童が府、全国値を下回っている。
- ・「自分には良いところがある」では「当てはまる」と答えた児童が府、全国値を上回っている。
- ・「ものごとを最後までやり遂げて嬉しかったことがある」では「当てはまる」と答えた児童が府、全国値を上回っている。
- ・「学校に行くのが楽しい」では「当てはまる」と答えた児童が府、全国値を上回っている。
- ・「学校の決まりを守っている」では「当てはまる」と答えた児童が府、全国値を下回っている。

【教科・学習について】

- ・国語の勉強が好きで、大切だと思っている児童が、府・全国値を上回っている。

- ・「国語の授業の内容はよく分かりますか」「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか」では、「当てはまる」と答えた児童が府・全国値を20ポイント以上上回っている。
- ・全体的に、自己肯定感がとても高く、この学年の児童のいいところが出ている。

3 今後の取り組み

- ・読書タイムや、図書の時間を継続して行っていき、活字に触れる機会をつくるとともにさまざまな分野の話にも気軽に触れられるように学校図書や学年の書架を整備、充実していく。また、休み時間に図書館を利用する児童が増えてきているので、引き続き読書活動支援者とも連携しながら、児童が本に親しめるような活動を進めて行く。
- ・本校の4年～6年で定着してきた少人数授業、習熟度別授業を継続し個に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。ノートのとりかたや授業の進め方の基本をそろえることで、児童が安心して授業に向かえるような環境づくりを継続して行う。
- ・国語の授業では今年度より、文章を読む際に文章の構成を視覚的に捉えやすくするために、色分けなどの方法を取り入れている。
- ・自分で考えたことを短い言葉でまとめ、伝えることができるように、朝の大池タイムを活用し、言葉集めや視写に取り組んでいる。
- ・学校のきまりを、児童自身が意識して生活できるように、児童委員会が中心となって自分たちの生活を見直せるようにしていく。

4 終わりに

本校では「大池トライ ～なんでもトライ なんでもトライ～」という研究主題で、基礎的な力を身につけた子どもの育成を目指した授業研究に取り組み、子どもたちがみんなで学び合うことのできるよう指導法の向上をめざし研修会を実施しています。今年度からは、特に国語の授業に力を入れ、「文を正しく読み取るための手立てや工夫」を研究の柱とし、問題文を正確に読む力を培っているところです。

本校の児童は、元気で、素朴で、優しく、何にでも興味を持つ子どもらしいところが素敵なおところですが、しかしながら、調査の結果を見ると、国語も算数も肯定的な回答が多いにもかかわらず、正答率に結びついていない傾向が見られます。意欲が知識・技能や思考・判断・表現力につながるような授業づくりを目指します。

また、「大池スタンダード」として教室でのあいさつ、話し方、声の大きさ、質問の仕方、反論の仕方など、学習の進め方や共通のノートの書き方を理解させるとともに、「めあてを持つ」―「自分で考える」―「友だちと考えを交流する」―「まとめ」―「ふりかえり」という学習の流れを大切に、さらに定着させていきたいと考えています。

ご家庭や園、学校、地域が手を携え、大池っ子たちを見守り、育てていただきますようお願いいたします。心豊かな子どもたちに育つには声をかけてくれる存在が大切です。自分で考え行動できる大池っ子に育つよう、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。